

171-0014 東京都豊島区池袋4- 17- 10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.87

グループ・メンバーの皆様へ AA日本常任理事会

「AAにおける逆説、それは、私たちの共同体の自立、その財政がアルコールのみによって支えられていることこそが、私たち一人一人にとってのAAの重要性の認識を高めるばかりでなく、私たち自身の回復に対する私たちの関わり意欲を高める要因ともなっていることだ。グループ会計からJ S Oの貸借対照表まで、AAはその全てが「私たちのもの」なのだ」

AAメンバーとなるために金銭が必要とされたことはない。そしてこの伝統を維持し続けて行くために、AAの選ばれた下僕なら誰にも、自立の価値と、共同体全体にわたる自発的献金の必要性を、グループやメンバーに周知させ続ける責任がある。

良心に基づく決定を思慮あるものとしようとするグループは、AAの財政に関する明確な情報を、グループ代議員や会計係に求める。地区、地域主催のAAサービス行事に参加し、AAの財政ニーズに関する情報を得る人も多い。J S Oは、AAの財政事情をガラス張りとするために、月次報告や財務分析資料を、また、評議会に合わせ年間決算/予算書を作成、各グループ宛に送っている。

AAでソプライティを得た私たちにとって「支え」という言葉は、分かち合い、人間、自尊心、感謝をもって為すべきであり、物質的には、何を得られるかではなく、何を与える特権を持っているかで考えるべきである。

AA共同体は、これまで何度となく、さまざまな形のお金や財産および名声の問題に直面してきたが、伝統の知恵のお蔭で、その人がどこに居ようとまだ苦しんでいるアルコールにメッセージを送るという、私たちの主要目的から外れたことはない。これこそがAAの基本的な仕事であり、そして、AAの愛の手を常に差し伸べて行くためには、金銭と霊性との絡みあいはどうしても避けられない問題として残り続け、私たち全員に、責任が与えられているのだ。

これは、「サービス - 霊性と金銭の交差点」というAAのパンフレットに書かれている言葉です。

日本に評議会制度が発足して6年、最初のうちは、評議会は常任理事が動かすものという雰囲気があった気もしましたが、試行錯誤をくり返す中、選出地域の仲間から委ねられた責任と、評議員としての自覚をしっかりと持って評議会に望まれる人が多くなってきたと感じています。

この数年間、AA日本の全体サービス予算額は、それ以前の時期に比べ10%強増というラインを維持してきています。「AAの12の概念」に示される、財政運営の慎重さと

いう観点に立てば、「ゆとりある準備金を用意されていない」という点に若干の懸念があることは事実です。一方で、まだ苦しんでいるアルコールにメッセージを届けるために役立つことならなんでもして行こう、その任をオフィスなど一部に集中させず、役割と責任を分化してメンバー一人一人、地区、地域でできることは、主体性を持ってやって行こうという姿勢が生まれてきていることも事実だと思います。

本年度の予算の特長的な面として、地域主体の活動活性化の一助にとの思いから、矯正施設関連、パブリック関係活動を合わせて、一地域当たり5万円の均等配分予算が組まれたこと、専門家との協力関係を一層深めてゆく意味も含めて、AA日本の現状を正確に把握するためのメンバーシップサーヴェイを実施することがあげられます。特に、前者の均等配分予算については、各地域がその地域の実情に合わせた独自の形でその有効利用を図られることを是非とも期待します。

また「12の概念」の中に示される「参加権」「決定権」「アピール権」について、メンバー、グループおよび役割を担う人がそれぞれの認識を高め、これまではっきりしていなかった評議会と常任理事会の関係/それぞれの活動運営面の責任と権限の委任基盤などを明らかにする評議会憲章および常任理事会準則の制定、さらにはサービスマニュアル、サービスガイドの見直しを時間をかけて進めて行こうという動きがもう一歩進んだ形で具体化したことは、評議会制度を一層身近に感じられるものとしようとする、より積極的な取り組みとして評価したいと思います。

評議会憲章制定については、評議会の決定に基づき、常任理事会議長が10人の小委員会メンバーを各地域にまたがる形で選任、草案作成作業を既にこの4月から開始しています。この小委員会メンバーからの意見の中に、時間に束縛されることなく、十分な意見を集めてしっかりとしたものを作るべきだという声があります。草案の内容については、その進行過程においてもできる限りオープンにしたいと考えています。小委員会メンバーの意見はもちろん、多くの人の多様な意見を聞かせていただくことができれば、万全とは行かなくともかなりしっかりとしたものを作れたいのではないかと考えています。

私自身も、常任理事という任期にとらわれず、メンバーの一員として為すべきことを果たして行きたいと思います。

常任理事会議長 小泉

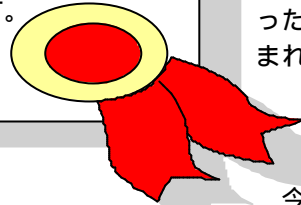


今年度もまた常任理事会の書記を増員募集しています。詳細については、JSOまでお問い合わせ下さい。

地域からの便り

日本各地域のニュースを皆様にお知らせしていますが、今回は関東甲信越地域の矯正施設へのサービスについての活動の一端をお伝えいたします。

病院 施設 担当理事 今井



矯正施設交流会 情報紙の発刊にあたり

H13-3-31 綾

先行く仲間がやっているサービス活動に関心を持ち始めた私は“その場へ行って話を聞いてみないと内容は分からない”と思い、仲間へ声をかけて矯正施設交流会なるものに一緒に参加させていただいたのが昨年の初秋頃でした。

その時の交流会では東京管区内の刑務所や保護施設へメッセージを運んでいる仲間の報告や次回のメッセージの日程など色々な事が話し合われていました。

その会合の中で、矯正関連施設へのメッセージ活動について多くの仲間へ知って欲しい、少しでも関心を持って欲しい、そして仲間と一緒にメッセージに参加して欲しい、という意見が多くの仲間から出されました。

その為の一つの手段として“交流会情報紙を発行してゆこう”ということになり、何の気紛れか分かりませんが私に編集の役目が回ってきました。

仲間の協力をいただきながら第一号は昨年初冬に発行したものの、第二号はまだ生まれていません。

“編集を担当してみたら...”と言われた時には、正直戸惑いました。私のソバで受けても良いのだろうか、今までは病院や関係する行政機関へのメッセージ活動の経験しかないのに矯正関連施設の情報紙を作ることが出来るのだろうか、という不安が先に立ちました。その時隣に居合わせた仲間へ相談したら「やる気さえあればいいんじゃないの、一人で作りあげる訳ではないんだから」と言われたので“出来そうだな...”という気持ちになってしまい引き受けさせていただきました。それでも、引き受けたくない気持ちを言わなければ気が済まなかったので「関心を持ったから参加したのに役割をさせられるとは思わなかった。来なければ良かった...」と言ってしまいました。

それでも今もって投げ出さずに“次はどうしようか.....”と考えているのだから自己中心的な考え方が出来なかった自分にすれば大きな変化だと思っています。

刑務所へメッセージを運ぶとなると、事前に自分の履歴書を出掛けて行きたい刑務所へ提出して登録して

おくとか、メッセージを運びたいが処罰を受けて収容されたことがあると規制があるとか、一連の手続きを踏まなければならないことも分かってきました。

現在の制度の中では止むを得ないことも知れませんが、メッセージを運び続けているなかで、男性だけの刑務所へ女性の仲間がメッセージに入れるようになった刑務所が東京管区の中に1カ所ではあります生まれています。

昨年の夏から地元の前橋刑務所へのメッセージが始まりました。今年も4月から再開されようとしています。

今までは同刑務所での酒害教育には県精神保健福祉センターのスタッフが出向いていましたが、昨年の定期移動で刑務所の酒害教育を担当していたスタッフの方が代わった時に“AAのメッセージが欲しい”という声がかかり、実現したものです。同センターへは以前から毎月定期的にメッセージを届けていました。関係するスタッフとの話の中で、他の矯正関連施設へのメッセージについて、その情報を届け続けていたことも効果があったのだろう、と感じられました。

このような情報を仲間へどうやったら分かりやすく伝えられるのか、刑務所へのメッセージ経験のない私には荷が重いと感ずることが多いのですが、仲間から色々な情報やアドバイス、原稿をいただきながら手探りでやって行きたいと思っています。

この情報紙はまだ定期的に発刊するまでには至っておりません。情報が少ない、原稿が集まらない、とブツブツ言っています。

「メッセージに行っている仲間よ！、情報をください。原稿にして送ってください」と素直に言えずに引っ込み思案に陥っている自分です。

この文章を読まれた仲間や関係者の方々へお願いがあります。

矯正施設へのメッセージについての疑問やら、質問、提案等、何でも結構です。また、メッセージの経験のある仲間はその経験談等を、どうか原稿やメモにして送って下さい。

私も折角いただいた役割ですので、出来る限り続けていきたいと思っています。

また“編集に携わってみよう”と思っている仲間を探しています。

一緒にやってみませんか！

色々な情報や、連絡は以下の所にお送りください。



〒372-8799

伊勢崎郵便局 私書箱2号

AA群馬地区 上州グルーブ 綾

「メンバーシップサーヴェイ」のお知らせ

昨年の評議会からの勧告をうけ今年度第六回評議会が実施が決定されました「メンバーシップサーヴェイ」へのご協力をお願い申し上げます。

一九九七年に第一回のアンケートを実施し、関係機関の皆様や、専門家の皆様からご評価いただきました。本来は三年毎にと計画していましたが、財政的問題の中で昨年度の実施に至りませんでした。今年度の常任理事会はその重点を特に広報活動に置き、このメンバーシップサーヴェイを行い、その目的にあるように活用したいと考えています。

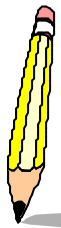
AAは調査や記録をとらないことはご存知の通りですが、このメンバーシップサーヴェイは、AAが社会資源として多くの人たちにご理解いただき、AAの目的である、苦しんでいる人たちへメッセージが届けられるために役立つものだと思います。

アメリカ・カナダでも一九六八年より三年毎に行われており、一九九八年には無作為抽出の六、八〇〇人のメンバーにアンケートを行いました。結果の中でいくつか目に付くところを上げると、平均年齢四五歳、女性は三四％（三〇歳以下だと三八％）、ホームグループを八五％のメンバーが持っている、スポンサーは七五％（九〇日以内に持った人が六八％）が持っている、平均週二日のミーティング参加などがあげられます。

五月二五日から六月一〇日の間にそれぞれのグループで用紙に回答をお願いいたします。

詳細についてはグループ代議員に用紙などをお届けいたします。また、ご都合がつかずミーティング会場に行けない時には、JSOにお問い合わせください。

出来るだけ多くのメンバーのご協力をいただければ幸いです。



広報委員会・メンバーシップサーヴェイ実行委員会

再版

「回復の道—それぞれの場合—PART 1」

(巻末のステップ、伝統改訂)

A5版 139ページ、1,000円

在庫切れのためご迷惑をおかけしておりました「回復への道 それぞれの場合 PART 1」が発刊されました。表紙は「PART 3」と同じデザインで、色違いです。「回復への道」の初版はちょうど10年前で、その後「PART 2」「PART 3」が発刊され、個人の物語のシリーズ本として定着しました。今回の「PART 1」は初版本の再版ですが、巻末の12のステップと12の伝統を新しいものに変えてあります。

JSO出版局 発行

近刊 5月初旬予定

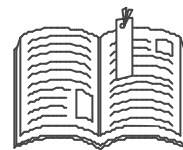
文庫サイズ

「アルコールクス・アノニマス」 (ビッグブック)

(評議会承認出版物日本語翻訳版)

308ページ 800円

間もなくビッグブックの文庫サイズ版が発刊されます。市販の文庫本と全く同じサイズで、ページ数は、ポケット版(昨年2月発刊)と同じです。



ご期待ください。ミーティングでの活用を願っております。

JSO出版局 発行

「今日を新たに」の読者の皆様へ

「今日を新たに」は、1年365日を通して1日ずつ自己を省みるための書籍ですが、基本的なテキストである「アルコールクス・アノニマス」(ビッグブック)「12のステップと12の伝統」からの引用が相当数の日にちのなかで紹介されております。引用部分にはたとえば「12のステップと12の伝統 p.95」のように、書名とページが付されております。

ところで、昨年のビッグブックの翻訳改訂版とそれに合わせた12 & 12の一部改訂版の発行(本年3月)により、引用部分のページも一部変動することになりました。そのためある日付の引用部分を原典で確認し、引用部分の周辺をさらに広く読もうとするとき、改訂版ではそれを探るのが面倒になった、との御指摘が読者から届いております。

「今日を新たに」は、一昨年第2刷が発行されたばかりなので、改訂版の発行には、しばらく時間がかかると思います。

そこで、とりあえず「正誤表」を作成し、読者の皆様の便に供したいと考えております。

なるべく、早期の作成を目指しておりますので出来上がりまで、今しばらくお待ち願います。

2001年4月 JSO出版局

国際協力献金のお願い



メンバー各位

新世紀が始まって、あっという間に春が通りすぎようとしています。メンバーの皆様におかれましては、毎日のサービス活動、それぞれのプログラムにますますお励みの事とお慶び申し上げます。

AAの創始者の運命的な出会いが、今日、世界中で200万人以上のメンバーがプログラムの奇跡を信じてミーティングを、そして、苦しんでいる人たちへメッセ-ジを届けています。

しかし、まだこの「AAの愛の手」が届けられていない所がたくさんあることも忘れてはならないと思います。

Dr. ボブが飲まない生き方を始めた日が6月10日だったことから、世界的にこの日をAAの誕生日として、それぞれに喜びを分かち合っています。

日本でも、2年前から始めたこの呼びかけが、メンバーの皆様にご理解をいただき多くの献金が寄せられております事、心から感謝申し上げます。

この日の前後に開かれるミーティングで自分の生き方への感謝と喜びを、言葉や分化の壁のためにメッセ-ジが運ばれていない国々でまだ苦しんでいる人たちのために、その時の自分に出きるだけの献金で分かち合えれば素敵な事だと考えます。

ニュースレターなどで、ご報告申し上げておりますように、この献金は国際出版基金、ワールドサービスミーティング事務局、アジア・オセアニア サービスミーティング事務局に届けています。

昨年秋に開催されたワールドサービスミーティングでもその成果が報告されました。国際出版基金に寄せられた各国からの献金がサービスの為の一翼を担っていることなどが説明され、各国の各グループとメンバーに感謝の意が贈られました。

報告書の一部をお伝えいたします。

第10回のWSMで、WSM事務局に「財政的な理由で自国では翻訳できない、あるいは出版物が入手できない国に対して、AA紹介・導入パンフを供給するという緊急課題を解決するため、資金集めに協力を要請する特別書簡を参加各国に発送するように」という勧告が出されてからちょうど10年目となりました。

これに応えた各国から国際出版基金へ2000年9月末までに届けられた支援金額の合計は16万5千ドルを越えています。

また、GSOで1991年から2000年までの国際出版援助に使われたお金は、100万ドル(1億2360万円以上)でまだ母国語での翻訳ができない国々の出版のサポートを続けています。

こうして45を超える言語への翻訳、印刷、配布ができることになりました。一例を挙げれば、クロアチア、ギリシャ、ロシア、ラトビア、中国、タガログ語などの出版が実行、配布されています。そして、2000年は9月にルーマニア語のビッグブックが先駆けの一人の数年に渡る惜しみない献身によって出版され、ギリシャ語の12&12、ウクライナ語、ハンガリア語、トルコ語、ベニン語、リトアニア語、スロヴァキア語でもAA文献が出版されました。最近では、モンゴル語の「ビッグブック」翻訳とスワヒリ語の「12&12」の翻訳が承認されています。

2000年度の呼びかけに応じて日本全国から寄せられた国際協力献金はこの出版基金、そしてWSM事務局、AOSM事務局へ献金いたしました。

今年度も皆様の温かい心が世界の様々な場所に届けられますようお願い申し上げます。

また、国際協力関係では、アジア・オセアニアの中で財政的にAOSMへの参加が困難な国にたいしての支援なども考えて行かなければならないでしょう。

今年の10月末には韓国でAOSMが開催され、アジア・オセアニアのサービスが話し合われます。もちろん日本国内のサービスも大切な事は言うまでもないことですが、AAの原理が自分の国の言葉となっている幸せを分かち合いたいと考えます。

今年も例年どおり、6月10日(AAバースデー)を挟んだ1週間を献金週間として呼びかけたいと考えます。5月に各グループにお届けする情報の中に、再度のお願いと詳細を各国から寄せられた献金のリストと共に送ります予定です。

また、現在ワールドサービスミーティング報告書の翻訳作業が進められており、出きるだけ早く、メンバーの手にお届けしたいと考えています。

各地域の報告会もすでに開催された所もあり、順次お伺いをして感動の分かち合いができればと思います。

どうぞ皆様の温かいご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

WSM 前期評議員 野村
WSM 後期評議員 山宮

AA日本ニュースレターNo. 87

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>